

ひとを育てる活動

2016年度のCMIP奨学生57名（カレッジ11、ハイスクール21、小学生25）が決定

6月の現地モニター時、CMIP事務局で2016年度奨学生リストを入手しました。84号で触れた寮母不在のミアソン寮から、公立JDエポレーン校に通うハイスクール奨学生に関しては、結局3名（いずれもアトモロック出身）が家庭の事情他の理由で中退と分かりました。今年も公立JDエポレーン校に残って学ぶ4名の奨学生は、それぞれ親族の家から通学することになり、15年間子どもたちのハイスクール教育を支えたミアソン寮はその役割を終えることになりました。建設にご協力いただき、また、寮やアトモロックを訪ねて下さったこともある故中田様に感謝申し上げます。

ノビシエート寮再開

自立心を育てるという方針の下、2年前に寮が閉鎖され、奨学生は下宿や学生アパートに移りましたが、新学期から寮に戻ってきました。昨年度は、2名の中退という事態に直面し、仲間と住む、指導が行き届く等、寮生活の利点をCMIPが重視したためです。

（写真：6月訪問時の交流会）



— カレッジ奨学金制度の今後について —

毎年5月初めには、カレッジ奨学生新規受け入れ数についてCMIPから打診があります。今年はK to 12制度によりハイスクール新卒がいらないはずですが、途中で学費が続かなくなったケースを含めて、カレッジ奨学金を待つ子どもたちが多数いることは想像に難くないですが、「3名卒業したから、2名」と回答しました。ここ3年ほどは円安の影響も受けて、カレッジ奨学金の赤字が増え続けているためです。

以下は学費の安いGFI大学教育学部2年カレンの昨年度奨学金です。授業料 14,800・教材費 3,600・交通費 3,500・食費補助 7,000 他計 29,000ペソ（約66,000円）。現行のカレッジ支援会費（年36,000円）の場合、2名で1名支援が妥当になります。一対一支援の場合は、現行の月3000円（年36,000円）について見直しが避けられなくなってきました。（SCMSI経由奨学金支援も、同じく年度内に検討の予定です。P3参照）

前85号のその後

（1）ナブル・カマガヤ小1期生に卒業記念品

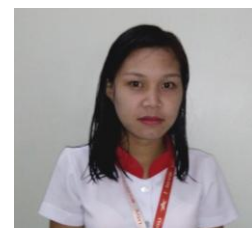
鎌ヶ谷国際文化交流会（ICECK）から記念品が贈られたとお伝えしましたが、贈り物を手にした卒業生の写真（卒業生38名の一部）が5月に届きました。



1期生38名の多くは、徒歩5時間ほどの距離にあるバランガイ・キナム公立ハイスクールで学ぶため、学校近くの親類に寄留したり、共同で部屋を借りたりしています。私たちは今後も、奨学金や給食支援により、CMIPの辺地校、ナブル・カマガヤ小学校や、バンリ小学校に学ぶ子どもたちの教育を支えていきたいと思っています。

（3）ジェニリン中退で、新JAUW奨学生にリンレン（ピラーン民族）が採用されました

カレッジ中退、行方不明とお伝えしたジェニリンは、4月末ようやく連絡がつき、妊娠も分かりました。JAUW東京支部には、窓口としての私たちの責任もあり、次回の応募は辞退したいと伝えましたが、中退のきっかけとなった教科選択の誤り、その他の諸事情をご理解いただき、再度、女性のリーダーとなる人材育成奨学金応募へのお招きをいただきました。現地CMIPに推薦をお願いしたところ、ソーシャルワーカーを目指すカレッジ2年生のリンレンが3代目のJAUW奨学生と決まりました。両親がいないため、親代わりに世話をしているJPICのセシール（84号P7参照）の監督のもと、セシールと同じくソーシャルワーカーとして、村の女性の組織化や自立支援のために働けるように、あと3年しっかり学んでほしいと思います。



コロナシア大学の2年生進級登録を済ませたリンレン(6月)